

ももたろう通信



発行日：平成30年8月6日
発行：社会福祉法人つどいの家グループホーム
発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）
住所：〒981-8001
仙台市泉区南光台東 1丁目 10-19
連絡先：022-252-0348

私達は仲間と協力して
生活しています

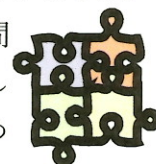
※ももたろう新聞の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

6月18日、大阪府北部を中心に最大震度6弱を記録した大地震が発生しました。7月には、西日本を中心に全国的に広い範囲で台風7号及び梅雨前線の影響による集中豪雨が発生しました。各地で大きな被害がでています。グループホーム等の福祉施設においても被災された方々がいらっしゃいます。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

7月14,15日に第15回「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会全国大会 in あいち」が開催されました。大会前には、あいち大会に向けて2017仙台大会入居者メンバーとあいち大会入居者メンバーでスカイプ交流を行いました。仙台大会入居者メンバーから「記念に残るような一日になりますように」「あいちで会いましょう」等のエールをおくりました。大会当日は猛暑のなか、500名程の方が参加されました。当法人のグループホームからも入居者Sさんが新幹線乗り継いで、あいち大会『入居者大集合』に参加しました。大会前のスカイプ交流で知り合った方を見つけ、「仙台から来ましたよ」と声をかけていました。これからも入居者同士がつながりあう場を大切にしていきたいと思います。パネルディスカッションでは、愛知県内のグループホーム入居者の方の「私の独立宣言」が紹介されました。その一部を紹介します。「あれこれ悩んでいても仕方ないので、親離れした私らしい自立を考え、私らしい人生のシナリオをつくらうと思いました。自分でできることは自分で、できないことは援助してもらうために、私の介助・援助マニュアルをつくらうと思いました。私の人生のシナリオと介助・援助マニュアルをつくるのが私の独立宣言です」。さらに、檀上の入居者の方からグループホームで働く職員へ



「明るい顔をしてくれるといいなあ…」の一言、会場からは笑いと頷きがありました。グループホームで働く多くの職員は、日々の業務に追われ、もしかしたら眉間にしわを寄せながら働いているのかも…ふと我に返りました。そんな表情をしていたら、声をかけたくても…。「笑顔は笑顔を呼ぶ」、今一度自身の顔を眺めてみませんか。
(グループホーム管理者 飯田克也)



グループホーム紹介～ひかりはうす編～

今回はひかりはうす編ということで、〇さんのひかりでの様子を紹介します。



〇さんは話をすることが大好きです。〇さんは視覚に障害があり、ほとんど視力がありませんが、リビングで過ごしていると、メンバーや世話人のお話をとてもよく聞いています。「何のご飯好き?」、「絵本のお名前なんて付ける?」などとたくさん話しかけてくれます。時々「なして(どうして)お空は青いの?」と、思わず「う～ん…何でだろう…」とこちらが考え込んでしまう質問もあります…(笑)〇さんにとって、ひかりはうすの皆と話をすることはとても楽しいことの1つです。大きな笑い声で皆を元気にしてくれます♪

また、〇さんは「～してくれるの」と言い、洗濯物たたみや、写真のように料理のお手伝いをしてくれたりもします。目の不自由な〇さんにとって、突然声を掛けられたり触られたりすることはとても不安です。ひかりはうす内では、何か行動を起こす時は必ず“音”を出して、「今は△△しています」などと分かりやすく伝えるようにしています。一度確認するとすぐに覚えて、何でもこなしてしまう〇さん。ひかりはうすのメンバーに「～してくれるよ!」と声を掛けてくれる優しい一面も持ち合わせています(^O^)。 「ありがとう～!」と言われた時の〇さんはとても嬉しそうです。

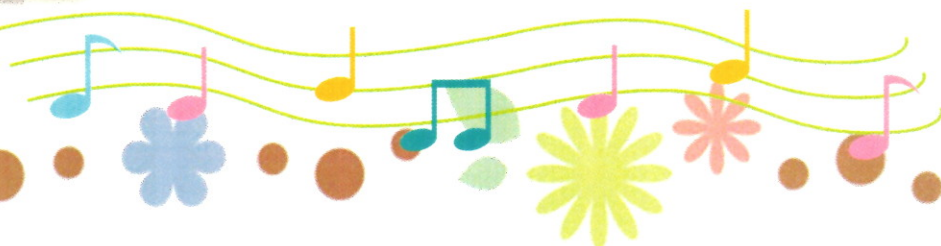


最近「のど自慢大会」の鐘の音(残念ながら不合格…の時の“カーン”…皆さんお分かりですね!)や「ごみ収集車」のメロディーを口ずさむことがお気に入りの〇さん。ひかりはうすは今日も明るい笑い声でいっぱいです。

これからも素敵な笑顔で楽しく過ごしましょう!

以上、グループホーム紹介「ひかりはうす編」でした(^O^)

(記 伊達)



グループホーム職員全体研修報告

5月30日に『緊急時対応』『日常生活への支援について』の研修を行いました。

『緊急時対応』では、グループホームに掲示してある「緊急対応マニュアル」の確認から始まり、異物のどにつまった時や、心肺停止時の対応、救急車への連絡についてを実際に行いました。職員同士が交代で対応を確認しながら、入居者について想定される場面での具体的な動きを話し合うことができました。

『日常生活への支援』では、資料を全員で読んだ後に、アンケートを行いました。アンケートの内容は「あいさつをしていますか？」という業務態度から、ホーム内の支援だけではなく、地域とのつながり等さまざまな設問があります。今はできていないことでも、“このような支援も、必要である”と知る機会となったと思います。(記 加藤)



参加者の感想

緊急時の対応は、分かっていてもその時になってうまくできるとは限らず、何回も繰り返し体験して体で覚える必要があると思いました。

利用者の「自立」について、利用者の生活の主体は利用者であって支援者はあくまで支援者であるということの提示があり、利用者・職員ともに周知する必要があると感じました。(記 守)

今回の研修で緊急対応や応急処置を学び、自分一人しかいない時に何ができるか、他世話人とどう協力できるかなどを、改めて考える機会となりました。緊急時に落ち着いて動けるように、今後も入居者に合った対応を世話人同士で話し合ったり、自分の中でも様々な場面をイメージしていきたいと思います。(記 坂本)

～入居者懇談会から～

グループホームでは、入居者の皆さんが月1回集まって懇談会を行っています。

入居者同士で、ホームでの生活や休日の外出などについて話したり、困っていることや頼みたいことを世話人に伝えたりすることが主な内容です。今年度は、それだけではなく、テーマを決めて勉強したり、思っていることを話をする活動も始めました。入居者のコメントを一部紹介します。

5月：消防訓練について

※各ホームで年間2回、夜間の火災を想定して、入居者も一緒に避難訓練をしています。

「大事なものを持って逃げる。家族の写真とか」

「冷蔵庫とかガスコンロとか、テレビとか怖い。火が出るから」「夜勤の人が、部屋に迎えに来てくれる順番が遅くなると、怖い」←火元により避難誘導の順番を決めるため、他入居者よりも遅くなることもあります。

6月：災害備蓄品について

※ホームにある備蓄品を入居者で確認しました。

「懐中電灯やラジオが、どこにあるか分からない」「玄関に避難用のリュックが置いてある」「自分のヘルメットがある」
「缶詰は、和菓子の缶詰がいい」「鮭缶が好き」「サバ缶！」「おにぎりが食べたい」(笑) 普段の会話では、あまり話題にならないこともあり、訓練や備蓄品について、入居者の皆さんがどのように感じているのか職員も知ることができました。これからも皆さんと一緒に考えていきたいと思います。(記 加藤)



GW ゴールデンウィーク



今号では各グループホームのゴールデンウィークの外出の様子を紹介します

オキーノ

大郷町の温泉施設、「夢実の国」にリフレッシュするために出掛けました。温泉に入る前に座敷を貸切、昼食。そして温泉へ。オキーノ以外のお風呂に入ったことのないWさん、最初は拒否がありましたが大浴場に入ることが出来、立ったり座ったりを繰り返していました。大浴場の外には森林へ続く4段の露天風呂があり、はしゃぐように笑顔で上がっていくMさん。青い空、緑の森林を見上げて温泉に浸かるSさんの姿は印象的でした。(記 宮本)



ひかりはうす

今年のGWはひかりはうすの皆で七ヶ浜へ行ってきました！当日はあいにくの曇り空でしたが、海が見えてくると「海だ〜！」と心がワクワクしてきました♪カフェレストラン「SEA SAW」にてランチです。ログハウス風のかわいらしいお店でした。Tさんは半熟卵が乗ったカレーを注文し、この笑顔(〇〇)！皆で美味しくいただきました。食後は海岸沿いをのんびり散歩し、ひかりはうすへ帰ってきました。また皆でお出かけしましょうね♪(記 伊達)



さくらはうす

はま寿司でお昼ご飯&水の森公園を散歩してきました。はま寿司では、SさんとTさんの食べるペースがとても速く、二人で20皿以上召し上がっていました。公園に散歩に行った際はAさんとKさんが先頭を歩き、皆さん楽しそうな様子でした。また皆で色々な場所に行きたいですね。(記 高階)



編集後記

今年は猛暑で、夏が来たと感じる日が多いですね。暑いとベッドから動きたくなくなりますが、週に1回は外に出るように心掛けています。玄関を出るまでに時間はかかりますが、一歩外に出ると、今日はどんな出来事が待っているのかと楽しくなってきます。私のこれからの楽しみは、旅行をすることです。皆さんは、この夏をどのように満喫しますか？

(記 坂本)

